

<過去1週間の動き>

(7月4日～7月10日)

USD/TRY: 25.8965～26.1999
TRY/JPY: 5.44～5.58 (参照値)

過去1週間のトルコ・リラ相場は小動きとなった。大統領選挙後の金融・財政政策の改革の方向性が少しずつ明らかになってきている。トルコ中央銀行(TCMB)のデータによると、トルコの株式市場には6月2週目以降、5週連続で海外からの資金流入が見られている状況であり、こうした資金フローがリラのサポート材料になっている可能性はあるだろう。

TCMBや国営銀行は為替差損保護付きリラ預金(KKM)の満期到来に伴う外貨需要の高まりに対応するため、民間銀行に対し外貨の供給を開始した模様だと7月4日に報じられている。7月3日には23億ドル規模の外貨の注入が行われた模様だ。リラ相場の変動を抑えることを目的とした措置ではあるが、マーケットでの直接的なリラの買い支えではなく、自由な為替取引に戻るというシムシェキ財務相やエルカン中銀総裁が就任当初に表明した方向性と乖離するものではない。なお、先週の週報では7月3日にリラが反発した背景として、複数の国営銀行がリラを支えるため再び介入を再開した模様だとするブルームバーグによるトレーダーからの発言を紹介していたが、これは上述のようにマーケットでのリラ買い支えではなく、民間銀行への外貨の注入のことだった模様だ。直後には区別がつかなかったものの、認識を改める必要がある。KKMについては、その出口戦略が重要な課題となる。6月27日時点で2.7兆リラと、全預金の23.8%にも達しており、急ピッチのリラ安が進む中、KKMを維持することに伴う中銀の負担は一段と重くなるのが想定されるためだ。

財政政策に関しては、7月5日に与党・公正発展党(AKP)から法人増税案が提出されている。法人税を現行の20%から25%に、銀行と金融機関については25%から30%に引き上げるとしている。この他にも付加価値税(VAT)引き上げなど様々な増税案が示されている。2月に発生した大地震の復興基金の捻出が主目的に掲げられている。選挙直後の増税には支持者の反発も強いのではないかと思われるが、財政規律を維持するためには必要な施策であろう。経済指標では、6月分のCPIが発表された。前年同月比+38.21%と5月分の同+39.59%からインフレが減速する形となっている。昨年10月には同+85.5%に達していた。もっとも、大統領選後のリラ安が2、3か月のラグを伴って輸入物価上昇につながる可能性が高いほか、最低賃金の大幅引き上げ(2023年7月から34%引き上げられることが公表済)、さらには公務員の賃金の引き上げも検討されている模様であり、年後半にインフレは再加速する算が大きい。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	予想*	実績	前回
7/5	08:00	CPI(前年比)	6月	38.85%	38.21%	39.59%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう1週間の見通し>

(7月11日～7月17日)

USD/TRY: 22.00～27.00
TRY/JPY: 5.30～6.30

来週1週間のリラは横ばい～やや持ち直す展開を予想。株式市場への資金流入拡大など、総選挙後の金融・財政政策の改革の方向性に対し、前向きな反応も見られている。エルドアン大統領も、新経済対策チームの改革によって直接投資の資金流入が拡大する、と発言しており、今のところ改革の方向性を認めている模様だ。当面の焦点は7月20日に控えるTCMBの次回金融政策決定会合となる。前回6月22日の会合では6.50%ポイントの大幅利上げにも関わらず市場は大幅なリラ安で反応する結果となった。リラ安・賃金の大幅上昇、というインフレ加速要因を考慮すれば、TCMBが大幅利上げを継続する可能性は高い。インフレ抑制に向けた、断固たる姿勢を改めて市場に印象づけられるかを見極めたい。

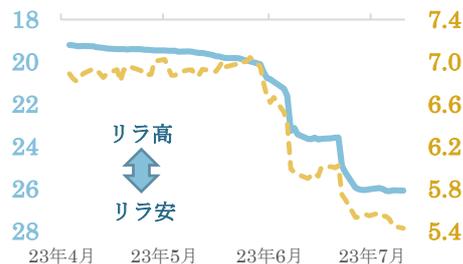
<向こう1週間に発表予定の主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	予想*	実績	前回
7/11	08:00	経常収支(USD)	5月	-7.40b		-5.40b
7/12	08:00	鋳工業生産(前年比)	5月	0.8%		-1.2%
7/14	08:00	12か月後インフレ期待	7月			30.65%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

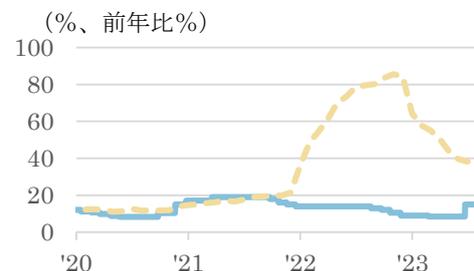
トルコ・リラの推移

実線: 対ドルレート(左軸、逆目盛)
点線: 対円レート(右軸)



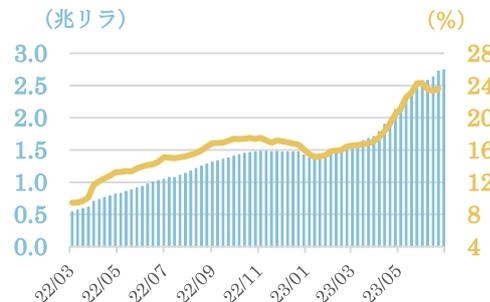
政策金利とCPI

実線: 1週間物レポレート(主要政策金利)
点線: 消費者物価指数(CPI)



為替差損保護付きリラ預金の残高

棒グラフ: 残高(左軸)
折れ線: 預金に占めるシェア(右軸)



(資料: トルコ統計局、BDDK、ブルームバーグ)

<文責>

欧州資金部

シニア為替ストラテジスト

中島 将行

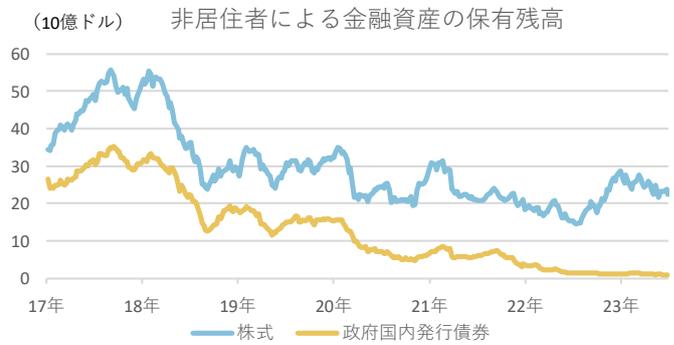
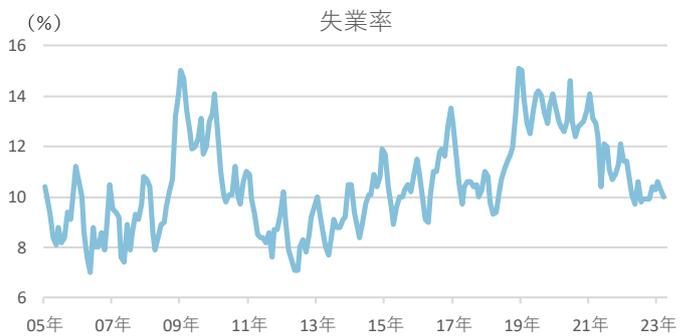
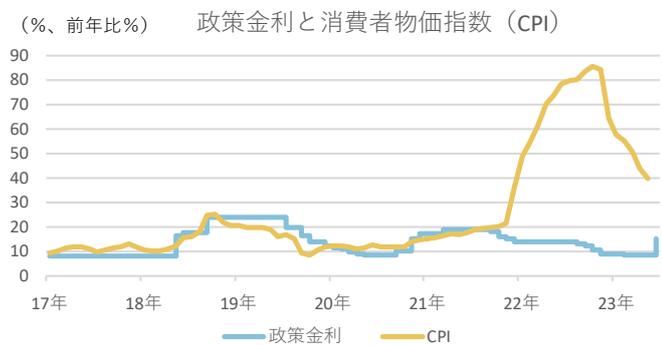
masayuki.nakajima@mhcb.co.uk

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

トルコ為替週報

2023年7月11日 | みずほ銀行欧州資金部

＜主要経済指標の推移＞



(資料：トルコ中央銀行/トルコ統計局/ブルームバーグ/みずほ銀行)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。